令和5年度　三宅支庁組織方針

Ⅰ　目的

○　三宅島・御蔵島の発展に貢献すること

Ⅱ　戦略・戦術

戦略1　村の課題に寄り添い、解決に向けた取組を支える
〈戦術1〉 支庁職員は進んで地域に溶け込み、村民の信頼獲得に努める
〈戦術2〉 行事やイベントはもとより、新たな取組や事業展開に際しては、支庁としても様々な形で協力・支援する

戦略2　災害リスクの低減と対応力の強化を図り、村民の生命・財産を守る
〈戦術1〉 中長期的な視点に立った不調対策の一層の推進を通じて、基盤整備及び維持管理を着実に進める
〈戦術2〉 村との合同訓練や時宜を捉えた情報共有によって、平時から災害への備えを万全にする

戦略3　村の自主的・自立的な行政運営に向けた支援を行う
〈戦術1〉 村の課題や置かれた状況を理解したうえで、事務の共同化や効率化、職員確保等に係る助言やサポートを行うとともに、小離島支援における御蔵島村モデルの構築を進める
〈戦術2〉 支庁の有する技術や情報を十分に活用し、村の事業推進を側面から支援する

戦略4　持続可能な産業振興への取組を後押しする
〈戦術1〉 関係団体との緊密な連携と情報共有を図りながら、引き続き後継者育成等の事業を推進するとともに、上質な宿泊施設の誘致等の東京宝島事業や移住・定住促進等による地域の振興に向けた取組を支援する
〈戦術2〉 更なる産業の振興を目指し、生産や流通に必要な施設整備及び技術支援を行う

戦略5　島の強みや魅力を創り、強化する
〈戦術1〉 島ならではの特産品の生産や開発、さらには地産地消の推進を支援することに加え、効果的な発信により島の素晴らしさをアピールする
〈戦術2〉 空港ターミナルや船客待合所のリニューアル、並びに気候を踏まえた植栽や雄山環状林道の着実な整備等を通じて、島の魅力を高めていく

戦略6　支庁内外の連携強化で、課題解決型の組織を創造する
〈戦術1〉 様々な事業がコンパクトにまとまっている「ミニ都庁」たる性質を生かし、課や職種、経験年数を超えた人材育成や若手職員の挑戦・成長の機会としてのPT の編成等、柔軟な組織・人材マネジメントを実践する
〈戦術2〉 「「未来の東京」戦略version up 2023」、「シン・トセイ3」を踏まえ、DX の活用や事務事業の見直し、並びに村をはじめとする多様な主体との協働を進め、管内の課題を解決していく

Ⅲ　共通

○　支庁は、都の総合行政機関として、都や三宅村、御蔵島村の中・長期計画等が示す三宅島及び御蔵島の将来像の実現に向けて、スピード感を持って積極果敢に取り組む
○　職員は、支庁としての役割を意識するとともに、常に問題意識を持ち、職場内で深く議論をしながら業務を行う。
○　職員は、テレワークを実施するなど仕事の進め方を抜本的に見直し、ライフ・ワーク・バランスの実現に取り組むとともに、体調管理に充分に留意し、心身の健康維持に努める。そのために、デジタル化により業務の効率化を図るなど、超過勤務の適正管理及び縮減に努めるとともに、年次有給休暇の取得を促進する
○　新型コロナウイルスの感染収束に向けた、段階的な危機管理体制への移行を進める
○　全ての職員は、「三宅支庁職員コンプライアンス必携」等を活用し、コンプライアンスの更なる徹底を図る